

厚生病院だより

すずかけ



第39号 平成25年5月9日 発行／鳥取県立厚生病院 編集／院内広報委員会

病院長新任あいさつ

前田迪郎前病院長の後を受け、4月1日に病院長として本院に赴任しました。私は1974年に医学部を卒業後、外科学講座に入局しましたが、訳あって病理学に方向転換いたしました。その後、呉共済病院臨床病理科、西ドイツ・ハノーファー医科大学病理学研究所、広島大学医学部を経て、1992年9月に鳥取大学医学部病理学第一講座に転任いたしました。専門は消化器がんと臓器移植の病理です。

さて、鳥取県立厚生病院は1963年、本邦初の産業組合立病院が鳥取県に移管されて開設されており、本年11月には創立50周年の祝賀会が計画されています。この間、中部地域唯一の公的病院として地域医療を支え、関係者の地道な努力により本院は着実な発展を遂げて参りました。

「医学・医療は常に曲がり角」、と言われるように医療や看護技術の進展は早く、地域住民のニーズは質、量ともに高まっています。加えて少子高齢化の進捗は医療・介護分野で最も顕著な影響を及ぼしています。こうした状況下、改めて本院の基本理念を想起すべき時でありましょう。「思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院」、「優れた医療を提供し、地域と密着した病院」、「職員の和を尊び、働きがいのある病院」。この基本理念を実現することこそ、私どもの使命です。公的病院であるが故の隘路もあることでしょう。しかし、すべての職員が日々、小さな改善を積み重ねていけば、大きな成果に結びつく、と私は確信しています。

皆様のご支援とご協力を切望し、本院のさらなる発展を祈念して、新任の挨拶とします。



院長 井藤久雄

厚生病院の基本理念

思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院

優れた医療を提供し、地域と密着した病院

職員の和を尊び、働きがいのある病院

第39号の内容

病院長新任あいさつ	…1	平成25年度緩和ケア研修会開催のご案内	…5
旧院長「退任にあたって」	…2	すずかけサロン5周年記念のご案内	…5
新看護局長着任あいさつ	…2	看護の日(5月12日)特集	…5
新しい放射線治療装置の稼働	…2	クリスマス会・新春事始め会を行いました	…6
市民公開講座「最新の乳がんの話」	…3	メディエーターの紹介	…6
「がん薬物療法公開講座」開催報告	…3	医師の事務作業をサポートします!	…6
「学ぼう、防ごう、生活習慣病」開催報告	…4	新任部長あいさつ、異動・退職者の紹介	…7
「第6回鳥取県がんフォーラム」開催報告	…4	新任医師の紹介	…8
平成25年度市民公開講座等のご案内	…4	創立50周年記念誌発刊に向けて資料提供のお願い	…8

旧院長「退任にあたって」



平成20年4月に鳥取県立厚生病院赴任の機会をいただいてから、この3月末にて5年が経過する。公務員とはいえ、国立と県立との組織・体制の差は大きく、当初は迷ったものである。あれも、これもとやりたい事への思いは次々に浮かぶが、いかんせん、力不足のためなかなか実現できず、達成が遅れたり、実現困難になってしまった事も多い。このために、院内職員はもとより、中部地区住民の方々や医師会会員その他の医療関係者の方々に失望を与えてしまった事が申し訳なく思われる。

厚生病院のことでは、うまくいったことより、実現できないで、残ってしまった事への思いが強く、悔しさと、申し訳なさで夜が眠られないこともある。病院の外来部門、手術室、ICUなどは5年前に改築されて立派になった。しかし入院病棟については、病室の狭さの解消が大目標であり、この改築は、患者さんのみならず、職員からの提言に最も多い項目である。願わくば、後任の院長さんをはじめ職員の方々が力を合わせて、入院病棟改築の実現に邁進していただきたく、ここにお願いいたしますものである。

前田 迪郎

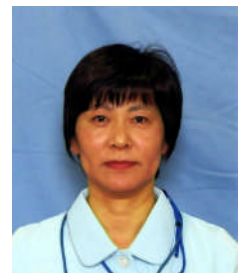
新看護局長着任あいさつ

春うらら穏やかな季節となりました。

当院の看護局は300余名の看護師で組織され、平均年齢32.9才（平成25年4月1日現在）と若いエネルギーに満ちあふれています。今年度は新入職18名を迎え新人研修が始まったところです。希望に充ちあふれ毎日笑顔と緊張の中で通勤する姿を見ながら、この看護師たちをしっかりと育てなければならぬ職責の重大さを痛感しているところです。

また総合案内あるいは病棟や廊下で車椅子や歩行車、あるいは家族の方とともに来院される場面をよくお見かけします。優しく丁寧な対応に心がけ、皆様が安全で安楽に生活されることを願いつつ過ごしています。

当院では認定看護師を中心に医師、看護師、栄養管理、検査部門、薬剤師等とチームを組み専門性の高いケアを提供しています。当院の「思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院」「優れた医療を提供し、地域と密着した病院」「職員の和を尊び、働きがいのある病院」の病院理念の基に選ばれる病院をめざして住民の皆様とともに歩んでいきたいと考えています。



看護局長 戸田 芳美

新しい放射線治療装置の稼働

私が当院に赴任させていただいた2010年4月初より、放射線治療を受けておられる患者様に皮膚炎がやや強く発症している印象を受けていました。放射線治療の担当看護師さんからも診察のたびに「皮膚を見てください。」とうながされ、「最近の放射線治療装置は昔のコバルトと違って放射線のエネルギーが高いので、あんまり神経質にならなくても大丈夫ですよ。」お答えしていましたが、気になって調べてみるとコバルトの時代と同程度の低いエネルギーしか発生できない装置とわかりました。エネルギーが低いと放射線が体の深い部分に到達しにくいので、病巣に十分な放射線を到達させるためには皮膚により多くの放射線が当たってしまいます。喉頭がんのように表層に発生する癌に対してはむしろ低いエネルギーの方が適しているのですが、治療ガイドラインでは体の深い部分に発生したがんの治療には高エネルギー装置の使用が推奨されており、県中部唯一の治療装置として地域の患者さんに十分な治療を提供できているとは言えませんでした。

2010年春の新任者の歓迎会の席で前田（前）院長から「何か要望がありますか？」と聞かれた際、真っ先に放射線治療装置の更新を希望したのはそのためです。しかし、高エネルギー装置は周辺への放射線を遮蔽するため新たに治療棟を建てる必要があります。巨額の予算が必要で

した。放射線室でも以前より同じ理由で放射線治療装置の更新を計画されていましたが、予算がネックとなり実現していませんでした。

幸いにもその年、地域医療再生基金という大きな補助金が交付されることが決まり、前田院長から「チャンスだ！」というお電話をいただいたのを今でも覚えています。その後、中部の主だった病院の院長、理事長に当院の放射線治療装置の更新の必要性をご理解いただき、また、管財課をはじめ多くの関係者のお力添えを得て、ようやく新放射線治療棟が完成。2013年5月の連休明けより本格的に稼働します。決して革新的な治療ができる治療装置ではありませんが、体の深い部分にできたがんの治療にも、表在のがんの治療にも1台で対応できる治療装置です。放射線室のスタッフ、担当看護師（今年度中に放射線治療の認定看護師の資格を取得する予定です。）と協力して、県中部のがん治療に貢献できるようがんばりたいと思います。



新しくなった放射線治療装置

放射線科部長 橋本政幸

市民公開講座「最新の乳がんの話」

女性のがんで罹患率が第一位の乳がんについての理解を深めるために、最新の乳がんの診療について倉吉未来中心で市民公開講座を開催しました。（平成24年11月25日）

1. 石黒清介先生（鳥大医学部付属病院 乳腺・内分泌外科診療教授）

乳がんの診断について—乳がん検診の意義—

乳がんは早期発見すれば、90%以上治るがんです。そのためには乳がん検診でマンモグラフィを積極的に受けることが重要です。鳥取県は、まだ全国平均より受診率が低いです。

2. 内田尚孝先生（鳥取県立厚生病院 外科医長）

乳がんの治療について—薬物、手術、放射線治療—

乳がんを診断されたら「初期治療」として手術、放射線治療、薬物治療を行います。がんの性質によって薬物を細かく選別し有効な薬剤（ホルモン剤、抗癌剤、分子標的治療薬）を使用していくので個人個人によって治療法が異なります。また手術も乳房温存手術と乳房切除があり、がんの進展具合と部位、さらに患者さんの希望によって手術方法を決定していきます。また再発後治療としても同様に上記3つを有効な順番に使用します。いずれにしても、総合的に全身的な治療が必要で病院の設備＋スタッフの充実が必要です。

3. 宮本佳子看護師（放射線外来 看護主任）

放射線治療は怖いといったイメージがありますが、医学の進歩で副作用を克服してきています。実際の放射線治療はどのように行われているか、また患者さんはどんな不安をかかえながら放射線治療を受けているかを「現場の生の声」を伝えることにより正しい放射線治療の知識と安心感を得てもらうために、看護師の立場より講演しました。

中央手術センター長 吹野俊介

「がん薬物療法公開講座」開催報告

平成24年11月15日、鳥取県立厚生病院大会議室において、医療スタッフ向け公開講座『がん薬物療法公開講座』を開催いたしました。

初めに、鳥取県立厚生病院、がん化学療法認定看護師の竹歳より『当院の薬物療法の現状報告』が行われました。

講演は、鳥取県立中央病院 内科医長 陶山久司先生をお迎えし、『がん薬物療法と有害事象～腫瘍内科医育成を考えてみませんか～』というテーマで、ご講演をいただきました。がん薬物療法中に体験された症例を報告されるとともに、先生ご自身が腫瘍内科医という立場であることから、腫瘍内科医とは実際にどのようなことを行っているのか、腫瘍内科医育成の必要性などを率直にわかりやすく語っていただきました。

外来治療室看護主任 竹歳祥江

市民公開講座「学ぼう、防ごう、生活習慣病」開催報告

平成25年1月27日に「学ぼう、防ごう生活習慣病」と題して、倉吉交流プラザで市民公開講座を開催しました。皆さんご存じのように、生活習慣病は「日頃の生活習慣の積みかさねによって引き起こされる病気の総称」です。その最も重要な原因として、食習慣、運動不足があげられます。そこで今回はそこにスポットをあて、さらに日本人の死因の3分の1を占め、生活習慣病の代表格である心臓の病気について講演しました。

当日は、運動による生活習慣病予防効果について松岡哲史リハビリテーション室副室長が、生活習慣病の肥満症、糖尿病、脂質異常症、高血圧症を予防するための食行動について鳥山千恵里栄養管理室長が、冠動脈疾患を未然に防ぐ意味で、病気を正しく理解していただくために矢野暁生不整脈内科部長が懇切丁寧に解説いたしました。

医療局長 秋藤洋一

「第6回鳥取県がんフォーラム」開催報告

鳥取県の地域がん診療連携拠点病院がもちまわりで行う医療従事者対象のがんフォーラムを、今回は厚生病院が平成25年1月19日に倉吉交流プラザで開催しました。

テーマは、「進行・再発大腸癌の治療方針」でした。第1部は、パネルディスカッションで、久光和則先生（国立病院機能米子医療センター 外科）の「当科における大腸癌化学療法の基本方針と現状」、中村誠一先生（鳥取県立中央病院 外科）の「当科における切除不能・進行再発大腸癌治療の現状」、瀬下賢先生（鳥取市立病院 外科）の「大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除の成績と安全性」、西江浩先生（鳥取県立厚生病院 消化器外科）の「当科における大腸癌肝転移の治療方針と現状」で4つの施設よりご発表いただきました。①高齢者に対する化学療法の適応、②抗癌剤投与のレジメンの決定、③肝転移巣に対する抗癌剤＋切除の適応とタイミングについて活発な意見交換をしていただきました。第2部は、室圭先生（愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部部長）の「大腸癌化学療法の実践 ～2013年の展望～」という演題で特別講演をしていただきました。講演内容は、大腸癌化学療法は抗癌剤に加えて分子標的治療薬が次々と承認・臨床導入され、それにより2006年を境に明らかな生存率の向上が確認されている。使用可能な薬剤を存分に使い切ることが至適な大腸癌化学療法の実践スタイルといえる。さらに新たなマルチキナーゼ阻害薬の承認も控えており、新たな大腸癌化学療法の治療体系を構築していく必要がある、という内容でした。有益な講演にフロアーより質問が相次いで有意義なフォーラムとなりました。

中央手術センター長 吹野俊介

平成25年度市民公開講座等のご案内

平成25年度市民公開講座予定

1 「胃がんをなおす！」

平成25年7月7日(日) 倉吉交流プラザ

胃がんの診断・治療についての講演

- ①胃カメラによる胃がんの治療
(消化器内科部長 野口直哉先生)
- ②胃がんを切除する～腹腔鏡下胃切除術 vs 開腹手術
(消化器外科部長 西江浩先生)
- ③胃がん手術を受けた患者さんの体験談

2 「肝臓癌について」(仮題)

平成25年9月8日(日) 倉吉交流プラザ

- ①肝炎と肝臓癌の関連
- ②化学療法と外科手術
- ③肝動脈塞栓術

3 「生活習慣病とがん」(仮題)

時期未定(平成26年1～3月頃) 倉吉交流プラザ

医療従事者対象の公開講座

外来薬物療法—薬剤師の役割(仮題)

平成25年10月11日(金) 厚生病院大会議室



第1部
パネルディスカッション



第2部 愛知県がんセンター
中央病院 室先生の講演

平成25年度緩和ケア研修会開催のご案内

当院は地域がん診療連携拠点病院として、鳥取県中部のがん診療に携わる医師等を対象に、緩和ケアについての基本的な知識を習得するために「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した研修会を開催いたします。

開催日：平成25年7月6日(土)～7日(日)

場 所：鳥取県立厚生病院 大会議室（外来・中央診療棟5階）



〔昨年の研修風景〕

本研修は、医師が対象ではありますが、「緩和ケアの基本的な知識を身につける」という目的から、医師だけではなく、看護師の参加も受け付けております。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

〔問い合わせ先：地域連携センター・がん相談支援室〕

すずかけサロン5周年記念のご案内

すずかけサロンは、平成20年10月にがんの患者会として活動を開始しました。

参加者同士の情報交換と交流、親睦を深めることを目的としています。

活動開始から今年で5周年となりました。多くの患者さんに参加していただき、皆様に支えられて5年間続いてきました。関係されました多くの皆様に心より感謝申し上げます。すずかけサロンでは、涙と笑いの連続でした。また、野外活動を積極的におこない、交流を深めることができました。

この度5周年を記念して、5周年記念「笑いのコンサート」を開催します。石川達之氏をお呼びして、みんなで笑って免疫力アップしたいと計画しています。すずかけサロンに来られた方はもちろん、1度も来られていない方、友人ご家族、また、がんとはまったく、関係ない方も是非ご来場ください。

開催日：平成25年6月4日(火) 14時～15時30分

場 所：鳥取県立厚生病院 大会議室（外来・中央診療棟5階）

お問い合わせ 0858-22-8181（代）
鳥取県立厚生病院 がん相談支援室

看護の日（5月12日）特集

フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日は「看護の日」となっています。また、その日を含む週間を看護週間とし、各地でイベントを開催します。

当院では『生き生き看護師～看護とともに～』というテーマで看護についての関心や理解を深めてもらうようにイベントや展示を行います。

展示では看護週間にあわせて、看護師の子供たちに描いてもらったお父さん・お母さんの絵や食事バランスチェック、各病棟の紹介を行います。

5月14日（火）には、「早期発見！早期対応！」に着目して、乳がん触知体験とAED装着体験を行います。

また、ミニコンサートでは、患者様とそのご家族様と一緒に歌って踊れる曲と昔懐かしのメロディー合唱を予定しています。

皆様に楽しんでいただけるよう考えていますので、多くの方の参加をお待ちしています。

活き活き看護師

看護の日

<看護の日フェア>



5/14（火）

<体験コーナー>
場所：南玄関ホール 時間：9:00～14:00
●乳がん触知体験
●AED体験

<ミニコンサート>
場所：5階大会議室 時間：14:00～14:30
●涙そうそう
●世界に一つだけの花
●三百六十五歩のマーチ

5/11（土）～5/17（金）

<展示コーナー>
場所：南玄関ホール
●働くお父さん・お母さんの似顔絵
●食事について
●各病棟紹介



鳥取県立厚生病院 看護局

クリスマス会・新春事始め会を行いました

入院闘病中の患者さん、また、患者さんを支えておられるご家族に、季節を感じていただき心の癒しとなればと、クリスマス会、お正月の事始め会を催しました。

12月19日のクリスマス会は、当院で闘病され通院中の患者さんとそのお友達によるクリスマスメドレーなどの楽器演奏に始まり、会場が明るく楽しい雰囲気になりました。続いて、倉吉北高等学校合唱部の皆さんによる、患者さんへ元気と笑顔が届けられるようにと心こもった優しい歌声が響き、涙する患者さんもおられました。がんと闘い喜びや悲しみを分かち合うことのできる仲間同士のすずかけサロンの皆さんの合唱では、会場の皆さんと一緒に楽しくコーラスしていただきました。また、有志の職員が、仕事終わりや休日に集まって練習したピアノや管楽器によるデュエットなどを演奏しました。患者さんやご家族からたくさん「ありがとう」の言葉をいただき心温まるクリスマス会になりました。

また、12月25日には、看護師から入院中の患者さん一人一人にメッセージを添えてクリスマスカードをお渡ししました。



1月4日のお正月の事始め会は、県庁職員と当院の職員の二人による箏と尺八による演奏により、お正月らしい雰囲気で始まりしました。続いて、県内東部地域の因幡麒麟獅子舞保存会の皆さんが来院され、静かで厳かな能を連想させる伝統ある獅子舞を披露いただき、また、会場の皆さん一人一人の頭を獅子に噛んでもらい、無病息災や家内安全を祈願していただきました。最後は、こられの催しを担当する患者サービス改善委員会の職員と会場の皆さんで「一月一日(いちがついちじつ)」を合唱し、新春をお祝いしました。

メディエーターの紹介

地域連携センターで、メディエーター（相談担当専任）として勤務することになりました。

役割としては、患者様が医療従事者と十分な対話が出来、不安が解消出来るよう仲介役として支援させていただくことです。また、医療の内容や医療者の対応などに関する苦情や相談にも対応させていただきます。少しでも患者様と医療従事者がよりよい関係を築く事が出来れば、患者様には安心して医療を受けていただくことが出来、医療従事者にとってはモチベーションアップに繋がるよい相乗効果となると考えています。皆様のご協力を得ながらがんばっていきたくと思っています。よろしくお願ひ致します。



相談担当看護師長 小原佐智子

医師の事務作業をサポートします！

医師は患者様に向き合って診療することが第一の役目です。しかし、実際にはカルテの作成・整理や診断書、各種資料の作成など事務作業が沢山あり、これらに手をとられているのが実情です。そこで4月から医師の事務作業をサポートする事務職員を従来の4名から12名に増員し、医師が少しでも診療に専念できる環境整備を行いました。グレーの制服を着た職員が外来診療に同席し、医師の事務サポートを行う場面が今後増えてくると思いますので、御理解くださいますようよろしくお願いいたします。患者様によりよい医療を提供できるよう医師のサポートに努めてまいります。



新任部長からごあいさつ

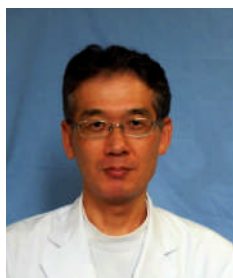
乳腺外科部長 内田 尚孝

この度、乳腺外科部長を拝命いたしました内田です。乳癌の治療法は、日進月歩に進歩しており、かつ、複雑多岐にわたります。したがって、乳腺外科は、高い専門性が求められている分野といえます。こうした中、当院では、地域の医療ニーズに答え、質の高い医療を提供するため、平成25年4月より、乳腺外科が新設されることになりました。診療は、乳癌診療ガイドラインに沿った標準的治療を遵守しています。また、手術では、癌の根治性を保ちつつ、術後、乳房の変形を最小限にし、かつ、創をなるべく目立たなくするために、適応のある方には、Key hole式乳房温存・形成術を導入しています。さらに、新しい治療法のための全国的な臨床試験にも積極的に参加していこうと考えています。今後とも、皆様方のご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



脳神経外科部長 谷浦 晴二郎

この度、脳神経外科部長を拝命いたしました谷浦と申します。当院に勤務してから、早1年半が過ぎ、病院の事情・地域の事情がなんとなくわかってきました。諸先輩方から叩き込まれた“負けない手術”を目指して、日々精進を続けていきたいと考えています（勝つには偶然性があり、負けるには必然性がある）。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新生児集中治療室部長 岡田 隆好

4月1日付で新生児集中治療室部長を拝命しました。ご承知のように、県中部地区では当院のみが、病的新生児の入院加療が可能な施設です。また新生児疾患は、そのほとんどが救急疾患であるため、奈良井小児科部長指揮のもと4名の医師で、24時間オンコール体制をとり、その診療に当たっています。さらに、より高度な治療を要する新生児（あるいは胎児）は、鳥取県周産期医療システム連携下に鳥取大学医学部母子医療センターや県立中央病院母子医療センターへの母体搬送や新生児搬送も行っています。今後とも、両施設はもとより産科の先生方との密な連携を保ちながら、中部地区の新生児（周産期）医療に、微力ながらも貢献できればと考えております。皆様どうぞよろしくお願い致します。



西上 京子
村口 三枝子
看護局
三田 正之
薬剤部

長期勤続退職者

本院 聡子
研修医 小椋 貴文
研修医 山本 宗平
消化器内科
小児科 州崎 一郎
院長 前田 迪郎

医師

3月31日付

原田 知実
麻酔科
医師

12月31日付

異動・退職者

お世話になりました。

新任医師

外科

くらしきともひろ
倉敷 朋弘 (医師)
12月1日着任



麻酔科

もりやま なおき
森山 直樹 (医長)
1月1日着任



呼吸器内科

たかみ ひろき
高見 大樹 (医師)
4月1日着任



消化器内科

はやしあきひろ
林 暁洋 (副医長)
4月1日着任



消化器内科

いよまた たくじ
井山 拓治 (医師)
4月1日着任



小児科

まつむらわたる
松村 渉 (医師)
4月1日着任



厚生病院創立50周年記念誌発刊に向けて資料提供のお願い

本院の歴史は、昭和3年「有限責任利用組合厚生病院」として設立認可され、同5年7月に病院業務開始したのが嚆矢であります。その後35年を経て県立移管が検討され、昭和38年4月「鳥取県立厚生病院」として新発足し、いよいよ本年をもって50年を迎えました。ここに至るまでには、職員はもとより、多くの方々の支えがありました。この大きな節目にあたり、歴史の足跡として「50周年記念誌」の発刊を計画しました。発刊に当たり、写真、報道記事の切り抜きなど本院に関係する各種の資料のご提供をお願い致します。よりよい記念誌にするためにも、是非とも皆様の御協力をお願い致します。ご提供いただける方は、6月末を目途に本院総務企画課川崎までご一報頂ければ幸甚に存じます。なお、資料等の採否につきましては、編集委員会に御一任下さい。

(50周年記念誌編集委員会)

病院概要

名 称

鳥取県立厚生病院

所在地/連絡先

〒682-0804

鳥取県倉吉市東昭和町150番地

TEL 0858-22-8181(代)

FAX 0858-22-1350(代)

ホームページ

<http://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/>

診療時間

午前8時30分から午後5時まで

予約制(再来患者の希望者)もあります

診療科目等

内科 呼吸器内科 消化器内科

循環器内科 脳神経内科 不整脈内科

外科 消化器外科 心臓血管外科

脳神経外科 整形外科

精神科 小児科 皮膚科 泌尿器科

産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科

リハビリテーション科 放射線科 麻酔科

受付時間

☆ 新患: 平日 午前8時30分から11時まで

☆ 再来: 平日 午前7時30分から11時まで

☆ 救急患者は、土曜日、日曜日、祝日、平日時間外も受け付けます